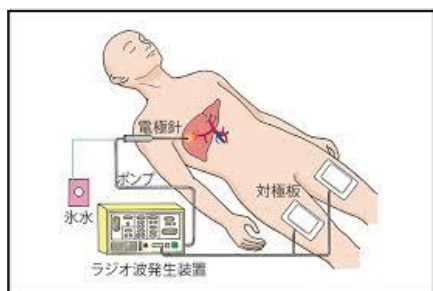


Masuko Newsletter



特定医療法人衆済会 増子記念病院 ニュースレター Vol.4

1.肝細胞癌治療について



ラジオ波焼灼療法は、肝細胞癌を死滅させる治療で、2004年より保険適応となり、肝細胞癌の治療に用いられています。機械は、現在4社から市販されています。展開型の針と針状の針があり、当科では症例に応じて針を選択して治療しています。当科でのRFAは局所麻酔して経皮的に超音波誘導で施行します。

◆ 現在当院で取り入れているラジオ波焼灼療法について

① Fusion US使用

当院使用のエコーは、リアルタイムで撮影中の超音波画面と事前に撮像したCT/MRIを連動させて表示するSMART Fusionシステムを搭載しています。

これを用いることにより、超音波で見えにくい位置にある腫瘍でもCT/MRI画像によって確認して同定できます。

② 人工胸水貯留

横隔膜直下にある腫瘍は、肺が肝臓近傍にあるので超音波で腫瘍を描出することが困難な場合があります。当院では、超音波で観察し、肋間から腹腔鏡使用時の針を用いて、胸腔内に生理食塩水を貯留することにより、肺を上方に押し上げ、確実に描出し安全に治療できます。



2.KM-CART技術について

KM-CART技術とは

KM-CART技術は、要町病院腹水治療センター長である松崎圭祐先生が考案された、大量の腹水排泄にも対応した治療方法です。腹水を全量抜き、全量処置して点滴で戻します。

適応症例について

① 水分・塩分制限、利尿薬などで改善しない難治性腹水 ② 癌性腹水

当院での流れ

主治医の先生より紹介状を書いていただき、外来受診後日程調整し入院治療となります。

入院期間は腹水を全量抜いて治療するので2泊3日になります。保険適応であり、2週に1回の施行可能です。治療後は、主治医の先生のところでのフォローと考えています。

(増子記念病院 肝臓内科 堀田直樹)